市民参画のまちづくり
笠間市まちづくり教室だより

問合せ　市民活動課（内線 135）　Mail: katsudo@city.kasama.lg.jp

活動報告⑭
まちづくり座談会

“かたろう・さぐろう・まちづくり”
～まちづくり教室からの発信～が開かれる。

5月11日、笠間工芸の丘クラフトホールで、まちづくり教室主催による「まちづくり座談会」を行いました。テーマは「かたろう·さぐろう·まちづくり」で、か·さ·まを頭につけてまちづくりについていろいろ語り合おうというものでした。

まちづくり教室は今年で12年目に入り、今までの活動を振り返って、今後の「笠間市まちづくり」をいかに進めるかを考える良い機会になりました。

座談会は、山口市長から「3年目の新市の取組みや市民の合意形成を得ることの難しさ」などの悩みや抱負を語るところから始まりました。「“教室”全体がもっとネットワークづくりに取り組もう」、「まちは何もしなくても“変わる”が、まちづくりは、どうまちを“変える”か、を考えること」、「昨年のワークショップで提案された“楽農楽食”の戦略化」、「教室は、行政のよき応援団になってもらいたい」、「志は高く、しかし“教室”への参入ハードルはできるだけ低く」などと多くの視点から熱い議論が交わされました。これらをまちづくり教室の活動に生かしていきたいと思います。

（この座談会の内容は近日発行予定の「まちづくり教室19年度報告書」に詳しく掲載されます。なお、ホームページからもご覧いただけます。）

熱い議論が交わされた「まちづくり座談会」

こんにちは市長室です

山口市長

北京オリンピック

4年に一度のスポーツの祭典、オリンピックが開催されています。オリンピックは、第1回のアテネ大会以来、今回で29回目、112年の歴史があり、多くの感動や記録を残してきました。

選手は、国内の選考大会を通過し、代表として決定されますが、その期間、自分を極限まで追い込み、練習を重ねていくことは、我々には想像がつかない世界であります。鍛えあげられた肉体、精神力には、美しさとたくましさが感じられます。

市長にオリンピック出場を報告する川崎選手(左)

今回、前回のアテネオリンピックに続き、笠間市出身の川崎真裕美選手が20km競歩に出場しています。市民の皆さんと共に声援を北京まで送りたいと思います。

過去を振り返ると、ロサンゼルスオリンピックでハンドボールに出場した関健三氏、アテネパラリンピックに自転車伴走で出場した大木卓也氏と、笠間市出身の選手がオリンピックに出場しており、それぞれの分野で輝かしい活躍を果たしています。そして今後、国内外で活躍が期待される若い有望な選手も市内にはたくさんいます。これから、着実に成長してもらいたいと期待しています。

市でも、スポーツの振興を図るために、各種大会を誘致したり、支援したりしてまいります。オリンピック種目ではありませんが、来年度には全国高等学校合気道演武大会が市内において開催されることになりました。

今年の暑い夏を、北京オリンピックの感動で乗り切りましょう。

笠間市長
山口伸樹